

エージピー

ウェアラブル型ロボット販売へ

新規事業に参入続々

航空機向けの電力供給「手掛るエージピー」(9月)や空港施設の保守などを377・JQは、東京

理工科大学発のベンチャー企業で人工筋肉を用いた動作補助ウェア「マッスルスーツ」の開発を手掛けるイノフィスト、「腰補助用マッスルスーツ」販売について販売代理店契約を締結した。同製品は主に介護業界、物流・荷役業界などで腰痛対策として活用されているが、同社ではこれを航空・空港業界における腰痛対策向けに販売するという。

電源などの動力源がいらず、腰の負担を大幅軽減し作業者の腰痛発症リスクを減少させるため、労働災害リスクの低減、労働者の長期雇用促進といった効果が見込まれる。現在製品化されているマッスルスーツは「腰補助」に特化したものとなっているが、開発元のイノフィストでは今後、そのほかの身体の動きを補助する装置を順次製品化していく予定とのこと。医療機器として展開するCYBERDYNE(7779

東マ)の「ロボットスーツHAL」とは異なり、作業現場などでの活用を目的としているため、比較的導入が進みやすいとみられる。

航空産業のイベントリスクに備えるため、2019年までに航空外売上比率の拡大を目指す同社では、このほかにも12月か

ら電気料金の削減プランを提示する「AGPでんき」の販売開始や、空調機節電システムの販売に関する代理店契約を締結するなど、小売電気事業者としての本格展開も開始しており、相次ぐ新規事業への参入に市場からの注目度が高まっている。話題性に加え、足元業績が好調に推移している点も好感されているようだ。株価は11月に高値1330円をマークした後の一服場面だが、目先調整一巡後の人気再燃を読んでここは押し目買いの機会を探りたい。

